

令和5年度 年間授業計画

国 語

令和5年度 年 間 授 業 計 画

学年	3年	教科	国語	科目	国語表現	単位数	2単位	年間予定授業時数	74時間
使用教科書・教材			国語表現 改訂版 （大修館書店）						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う心を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現する態度を育てる。		
指導の 留意点	表現の方法を、あたまで理解するだけでなく、実際に体を動かして習得させる。		
学 習 内 容	「書いて伝える」 原稿用紙の使い方 わかりやすい文を書く 言葉の性質を知る 関係に働きかける言葉 単語の由来を探る 「小論文・レポート入門」 小論文を書くために 「意見」を育てる方法 構想ノート の 作り方 小論文作品例と相互批評 自分の意見を書く 課題文を読んで意見を書く ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ※漢字小テストを随時行う。	「自己 PR と面接」 自分を見つめる 効果的な自己 PR 「会話・議論・発表」 相手や場面に応じた会話 プレゼンテーションの工夫 ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ※漢字小テストを随時行う。	「メディアを駆使する」 通信文を書き分ける 電話を使いこなす 「表現を楽しむ」 言葉で遊ぶ 詩歌を楽しむ 「わが町自慢」の パンフレット作り ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ※漢字小テストを随時行う。
予定授業時数	26	30	18
評価の 観点・ 方法	・ 定期考査・漢字小テスト及び平常点として平素の授業への取り組みの様子、課題の提出状況などにより総合的に評価する。 ・ 評価の割合は、定期考査・漢字小テスト 7 割、平常点 3 割とする。		

令和5年度 年間授業計画

学年	4年	教科	国語	科目	現代文 A	単位数	2単位	年間予定授業時数	74時間
使用教科書・教材			現代文 A 改訂版（大修館書店）						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	国語の基礎的・基本的な能力、及び話し、書き、聞くことに対する応用的な能力を養う。		
指導の 留意点	できるだけ多くの教材を扱い、幅広く学習指導できるように努める。 教材本文の読解学習指導後、言語活動への発展的な学習指導を行う。		
学 習 内 容	将来を考える 「きっと叶いますよ」 小川 洋子 文化の理解 「和の思想、間の文化」 長谷川 権 小説を楽しむ 「ざしきわらし」 吉本 ばなな 情報と私たち 「情報の力関係」 佐藤 雅彦 ※幅広い種類の文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするような指導を行う。 ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ・漢字（主に常用語句）の学習、国語常識の演習を毎時間行う。	ことばと文化 「ものことば」 鈴木 孝夫 社会で生きる 「幸せの分量」 立松 和平 自然を見つめる 「ウサギの耳はなぜ長い？」 上田 啓介 漱石・鴎外の世界 「こころ」 夏目 漱石 ※幅広い種類の文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするような指導を行う。 ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ・漢字（主に常用語句）の学習、国語常識の演習を毎時間行う。	現代社会を考える 「家族化するペット」 山田 昌弘 言語文化の窓 「敬語」 ※幅広い種類の文章を読み、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするような指導を行う。 ※適切な表現を用い、自分の考えを文章にまとめる学習を適宜行う。 ・漢字（主に常用語句）の学習、国語常識の演習を毎時間行う。
予定授業時数	26	30	18
評価の 観点・ 方法	・定期考査・漢字小テスト及び平常点として平素の授業への取り組みの様子、課題の提出状況などにより総合的に評価する。 ・評価の割合は、定期考査・漢字小テスト7割、平常点3割とする。		

社 会

令和5年度 年 間 授 業 計 画

東京都立大島高等学校 (定時制)

学年	3年	教科	地歴	科目	日本史 A	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			日本史 A 現代からの歴史 (東京書籍)						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	近現代史を中心にわが国の歴史に対する理解を深め、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
指導の 留意点	基本的な事項を重視する。見通しを立てたり、振り返りの学習活動を行う。 視覚的な教材を使用し、興味関心をもって学習を進められるように配慮する。		
学 習 内 容	江戸から東京へ ・海に広がる東京 (伊豆諸島について) 19 世紀の動向と日本 ・日本はどう開国したか ・開国後、政治はどう変化したか ・開国後、経済はどう変化したか 開国と倒幕 ・公武合体と尊皇攘夷運動 ・倒幕運動はどう展開したか 明治新政府の諸改革と社会の変化 ・明治政府はどう成立したか ・廃藩置県と岩倉使節団 ・徴兵制と地租改正 ・殖産興業をどう進めたか ・明治政府はどう分裂したか I C T 機器を利用した学習	立憲体制の成立 ・帝国憲法はどう制定されたか ・初期議会 ・現代の選挙制度とその課題 日清戦争と国際関係 ・日清戦争と国民 ・日清戦争後の台湾と朝鮮と戦後 経営 ・産業革命はどう進化したか ・賠償金と社会問題 日露戦争前後の世界と日本 ・日露戦争と国民 ・日露戦争後の戦後経営 ・韓国併合と南満州支配 帝国日本と第一次世界大戦 ・第一次世界大戦と参戦外交 ・パリ講和会議と東アジアの独立運動 I C T 機器を利用した学習	・大戦景気と社会変動 ・ロシア革命と米騒動 ・三・一独立運動と五・四運動 政党政治と大衆文化 ・関東大震災と思想統制 ・ワシントン体制 ・大正デモクラシー 軍国日本への道 ・昭和はどう開幕したか ・満州事変をめぐる動向 ・日中戦争の長期化 太平洋戦争と日本 ・大東亜共栄圏の実態 日本の戦後改革 ・敗戦と占領 I C T 機器を利用した学習
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・方法	観点①現代社会について関心・意欲・態度 ②現代社会の出来事に関する思考・判断 ③現代社会についての知識・理解 方法①定期考査 ②出席状況 ③興味・関心・態度・プリントの取り組み状況		

令和5年度 年 間 授 業 計 画

東京都立大島高等学校 (定時制)

学年	4年	教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			高等学校 新現代社会 (帝国書院)			担当者		工藤 和起	

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	広い視野に立って、現代の社会に対する知識を持ち、理解を深める。人間としてのあり方生き方について自覚を育て、民主的平和的国家を形成する主権者としての資質を養う。		
指導の 留意点	基本的な事項を重視する。見通しを立て、振り返りの学習活動を行う。 視覚的な教材を使用し、興味関心をもって学習を進められるように配慮する。		
学 習 内 容	江戸から東京へ ・海に広がる東京 (伊豆諸島について) 現代の経済社会と経済活動 ・経済主体と経済循環 ・景気変動と物価 ・経済規模と経済成長 ・戦後の日本経済の復興と民主 化政策 ・企業の役割とはたらき ・租税のしくみと財政政策 ・金融機関と金融政策 ・時事問題研究 最近起こった 出来事、政治や経済、社会問題 などについて新聞等を使用した 学習 I C T機器を利用した学習	経済活動のありかた ・社会保障制度の役割と課題 ・労働問題 ・環境を守るために ・食の安全性 ・就職について考える ・カードローンの注意点 ・国際社会の動向 ・冷戦のはじまりと世界の動き ・国際収支と為替相場 ・時事問題研究 最近起こった出来事、政治や経 済、社会問題などについて新聞 等を使用した学習 I C T機器を利用した学習	・冷戦後の世界 ・核兵器と軍縮の問題 ・国際連合と国際平和 ・日本の安全保障と平和維持活 動 ・沖縄のいま ・時事問題研究 最近起こった 出来事、政治や経済、社会問題 などについて新聞等を使用した 学習 I C T機器を利用した学習
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・方法	観点①現代社会について関心・意欲・態度 ②現代社会の出来事に関する思考・判断 ③現代社会についての知識・理解 方法①定期考査 ②出席状況 ③興味・関心・態度・プリントの取り組み状況		

数 学

令和5年度 年 間 授 業 計 画

学年	3年	教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材		改訂版 新高校の数学Ⅱ（数研出版） 改訂版 ポイントノート数学Ⅱ（数研出版）							

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	数学Ⅰの発展的内容および、数学Ⅰの知識をもとに数学Ⅱの基礎的内容を習得させる。		
指導の 留意点	基本事項を十分に理解させるために、演習時間を十分確保し定着を図る。また、生徒間の話し合い・教え合いの時間を積極的に取り入れ、問題解決能力を涵養する。		
学 習 内 容	基礎問題の復習 既習事項である比と割合、関数、グラフを復習し、理解を深める。 図形と方程式 ・座標軸と点、直線についてより深く学習し、様々な条件のグラフの位置関係を計算により読み取れるようにする。 ・円の方程式について理解し、座標軸上で円を含む様々なグラフを観察できるようにする。	基礎問題の復習 既習事項である関数、代入計算を復習し、理解を深める。 微分法 ・極限や微分法の考え方に触れ、その計算方法を習得する。 ・微分により接線の方程式を求めたり、関数の増減を調べられるようにする。	基礎問題の復習 既習事項である関数、分数計算、代入計算を復習し、理解を深める。 積分法 ・積分法の考え方に触れ、不定積分と定積分の計算方法を習得する。 ・積分と微分の関係性を理解し、積分計算により面積を求められるようにする。
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・ 方法	事象を考察し、積極的に活用できるかを発問・小テストなどで判断する。 数学的な表現、思考の過程を発言・ノートなどにより総合的に判断する。 定期考査、小テスト、授業への取り組みをもとに知識の定着や内容の理解を総合的に評価する。		

令和5年度 年 間 授 業 計 画

学年	4年	教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	2～3 単位	年間予定授業時数	70～105 時間
使用教科書・教材		改訂版 新高校の数学Ⅱ（数研出版） 改訂版 ポイントノート数学Ⅱ（数研出版）							

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	数学Ⅰの発展的内容および、数学Ⅰの知識をもとに数学Ⅱの基礎的内容を習得させる。		
指導の 留意点	基本事項を十分に理解させるために、演習時間を十分確保し定着を図る。また、生徒間の話し合い・教え合いの時間を積極的に取り入れ、問題解決能力を涵養する。		
学 習 内 容	<u>基礎問題の復習</u> 既習事項である指数法則、平方根の内容を復習し、理解を深める。 <u>指数関数と対数関数</u> ・ 指数の範囲を拡張し、指数法則を用いて様々な計算を行えるようにする。 ・ 対数の定義や指数と対数の関係性について理解し、対数を含む 様々な計算ができるようにするとともに、対数の有用性を実感する。	<u>基礎問題の復習</u> 既習事項である三角比の内容を復習し、理解を深める。 <u>三角関数</u> 一般角の考え方や、一般角に対する相互関係の公式、加法定理 について理解し、様々な問題解決に活用できるようにする。	<u>基礎問題の復習</u> 既習事項である文字式の計算、方程式、実数の内容を復習し、理解を深める。 <u>式と証明</u> ・ 文字式の除法及び分数式の計算をできるようにする。 ・ 恒等式の定義及び考え方を学び、その証明方法について理解を深める。 ・ 複素数と方程式 虚数や複素数の定義を学び、複素数範囲での計算をできるようにする。
予定授業時数	26～39	26～39	18～27
評価の 観点・ 方法	事象を考察し、積極的に活用できるかを発問・小テストなどで判断する。 数学的な表現、思考の過程を発言・ノートなどにより総合的に判断する。 定期考査、小テスト、授業への取り組みをもとに知識の定着や内容の理解を総合的に評価する。		

理 科

令和5年度 年 間 授 業 計 画

学年	3年	教科	理科	科目	生物基礎	単位数	3単位	年間予定授業時数	105時間
使用教科書・教材			改訂 新編生物基礎 東京書籍 生基312						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究することができる。		
指導の 留意点	少人数の利点を生かし、個々の能力に合わせて、指導できるように留意する。 実験やグループワークなどを通して生徒同士が協同的に学べるよう留意する。		
学 習 内 容	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 ① 多様性と共通性とは ② 細胞にみられる多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー ① 生命活動を支える代謝 ② 代謝を進める酵素 ③ 生体内のエネルギー変換 ④ 葉緑体とミトコンドリアの起源 2編 遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 ① DNA の構造 ② DNA とゲノム 2章 遺伝情報の分配 ① 細胞分裂における DNA の複製と分配 ② DNA の倍加 ③ DNA の正確な複製	2編 遺伝子とそのはたらき 3章 遺伝情報とタンパク質の合成 ① DNA とタンパク質合成 ② 遺伝子の発現と生命現象 3編 生物の体内環境の維持 1章 体内環境の維持 ① 体内環境と体液の循環 ② 恒常性と血液 ③ 体内環境を調節する器官 2章 体内環境を保つしくみ ① 自律神経系による調節 ② ホルモンによる調節 ③ 血糖値の調節 3章 体内環境を守るしくみ ① 免疫のシステム ② 免疫とヒト	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性 ① 生態系 ② 植生と生態系 ③ 植生と遷移 2章 気候とバイオーム ① 地球上の植生分布 ② さまざまなバイオーム 3章 生態系とその保全 ① 生態系でのエネルギーの流れ ② 生態系での物質の流れ ③ 生態系のバランス ④ 生物多様性の保全
予定授業時数	39	39	27
評価の 観点・ 方法	(1)他者と協同しながら学習に取り組んでいるか。（授業態度） (2)自ら進んで事物・現象に関わり、学んでいるか。（授業態度、課題） (3)観察・実験を通して、科学的に探究することができるか。（課題、考査） (4)生物や生物現象について、理解しているか。（課題、考査）		

令和5年度 年間授業計画

学年	4年	教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			改訂 高等学校 地学基礎 第一学習社 地基310						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究することができる。		
指導の 留意点	少人数の利点を生かし、個々の能力に合わせて、指導できるように留意する。 実験やグループワークなどを通して生徒同士が協同的に学べるよう留意する。		
学 習 内 容	1章 宇宙における地球 1節 宇宙の構成 ・宇宙の始まり ・宇宙の広がり と 銀河の分布 2節 太陽 ・太陽の組成 ・太陽の構造 ・太陽の誕生と将来 3節 太陽系の中の地球 ・太陽系の構造 ・太陽系の誕生 ・地球型惑星 ・木星型惑星 ・惑星や衛星以外の天体 ・生命の惑星地球 2章 活動する地球 1節 地球の姿 ・地球の形と大きさ ・地球内部 ・地球の構成物質 ・プレートの運動 ・大山脈の形成 2節 火山活動と地震 ・火山の分布と地形 ・火成岩 ・地震の仕組みと地域	3章 移り変わる地球 1節 地層や岩石と地質構造 ・地層の形成 ・堆積岩 ・地殻の変動 ・変成岩 2節 地球環境と生物界の変遷 ・化石 ・地層の対比 ・地質時代とその区分 ・先カンブリア代 ・古生代 ・中生代 ・新生代 4章 大気と海洋 1節 地球の熱収支 ・大気の構成 ・大気圏の特徴 ・対流圏での天気 ・太陽放射と地球放射 ・地球の熱平衡 2節 大気と海洋の運動 ・大気の大循環 ・海洋の大循環	5章 地球の環境 1節 地球環境の科学 ・地球温暖化 ・オゾン層の破壊 ・エルニーニョとラニーニャ 2節 日本の自然環境 ・季節の変化 ・自然景観 ・気象災害と防災 ・地震災害 ・地震予測と防災 ・火山災害と防災
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・ 方法	(1)他者と協同しながら学習に取り組んでいるか。（授業態度） (2)自ら進んで事物・現象に関わり、学んでいるか。（授業態度、課題） (3)観察・実験を通して、科学的に探究することができるか。（課題、考査） (4)地球や地球を取り巻く環境について、理解しているか。（課題、考査）		

保 健 体 育

令和5年度 年間授業計画

学年	3 年	教科	保健体育	科目	体育	単位数	3 単位	年間予定授業時数	1 0 6 時間
使用教科書・教材			最新高等 保健体育 改定版 大修館						

	1 学期	2 学期	3 学期
指導内容	各種運動の実践を通して基本的な運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことが出来るようになる。生涯を通じて継続的に運動が出来る能力を高める。人数が少ないので一人一人の能力に合わせ、技術の習得を行う。また種目によって、特別なルールをつくり楽しく活動が、できるようにする。		
具 体 的 な 指 導 目 標	体づくり運動 体育理論 生活のなかのスポーツ スポーツ振興と自然環境 バレーボール 基本練習 オーバーパス アンダーパス サーブ スパイク 簡易ゲーム バドミントン 基本練習 各種フラインクの練習 ハイクリアー ドライブ ヘアピン スマッシュ サービス 1 対 1 の練習 剣道 伝統的行動の仕方 しかけ技・応じ技	水泳 スタート クロール バタフライ バスケットボール パス ドリブル シュート 1 対 1 ゲーム 跳び箱 安全について 切り返し系 回転系 硬式テニス 基本練習 ストローク ボレー サーブ ゲーム 砲丸投げ 立ち投げ サイドステップ・グライド	持久走 自分に適したペースで走る 卓球 基本練習 フォアハンド・バックハンド バックショート サービス レシーブ カット ラリー ゲーム ダンス 現代的リズムのダンス 創作ダンス
予定授業時数	3 9	3 9	2 7
評価の 観点・ 方法	「知識及び運動」・「思考、判断、表現力」・「学びに向かう力、人間性」について総合的に判断して評価する。		

令和5年度 年間授業計画

学年	4 年	教科	保健体育	科目	体育	単位数	2 単位	年間予定授業時数	74 時間
使用教科書・教材			高等学校 改訂版 保健体育 第一学習社						

	1 学期	2 学期	3 学期
指導内容	各種運動の実践を通して基本的な運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことが出来るようになる。生涯を通じて継続的に運動が出来る能力を高める。人数が少ないので一人一人の能力に合わせ、技術の習得を行う。また種目によって、特別なルールをつくり楽しく活動が、できるようにする。		
具体的な指導目標	体づくり運動 体育理論 運動のしくみ 運動と体力の高め方 バドミントン 基本練習 各種フラインクの練習 ハイクリアー ドライブ ヘアピン スマッシュ サービス 1 対 1 の練習 水泳 スタート クロール 背泳ぎ	水泳 スタート クロール 背泳ぎ バスケットボール パス ドリブル シュート 1 対 1 ゲーム 硬式テニス 基本練習 ストローク ショートストローク ボレー サーブ 簡易ゲーム ゲーム ソフトボール キャッチボール バッティング ゲーム	持久走 自分に適したペースで走る 卓球 基本練習 フォアハンド・バックハンド バックショート サービス レシーブ カット ラリー ゲーム
予定授業時数	2 6	3 0	1 8
評価の観点・方法	「知識及び運動」・「思考、判断、表現力」・「学びに向かう力、人間性」について総合的に判断して評価する。		

芸 術

2023（令和5）年度 年間授業計画

学年	3年	教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			高校生の美術2 日本文教出版						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、感性を高め、創造的な表現の能力を伸ばす。生徒が自分自身を見つめ、自己表現をすることができるようになる。		
指導の 留意点	生徒一人一人の能力を伸ばす授業を行う。又、今後の生活の中で美術を楽しむことができるように、幅広い教材を扱う。		
学 習 内 容	オリエンテーション 色彩構成と遠近法 パッケージデザイン 写真を使った油絵制作	メゾチントプレート銅板 レザークラフト 絞り染め 絵付けマグカップ制作	デコフレーム 切り絵制作 まとめ
予定授業時数	26時間	26時間	18時間
評価の 観点・ 方法	① 作品→ア 技術の習得状況 イ 想像性、アイデアの豊かさ ウ 表現力 エ 作業の計画性 ② 意欲・関心・態度→ア 出席状況 イ 授業を受ける姿勢 ウ 提出物等		

2023（令和5）年度 年間授業計画

学年	4年	教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2～3単位	年間予定授業時数	70～105時間
使用教科書・教材			高校生の美術2 日本文教出版						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、感性を高め、創造的な表現の能力を伸ばす。生徒が自分自身を見つめ、自己表現をすることができるようになる。		
指導の 留意点	生徒一人一人の能力を伸ばす授業を行う。又、今後の生活の中で美術を楽しむことができるように、幅広い教材を扱う。		
学 習 内 容	オリエンテーション デッサン基礎① デッサン応用② 木工制作 ポスターデザイン	写真を使った油絵制作 木工制作応用 陶芸制作応用 レザークラフト	絞り染め制作 パッケージデザイン まとめ
予定授業時数	26～39時間	26～39時間	18～27時間
評価の 観点・ 方法	① 作品→ア 技術の習得状況 イ 想像性、アイデアの豊かさ ウ 表現力 エ 作業の計画性 ② 意欲・関心・態度→ア 出席状況 イ 授業を受ける姿勢 ウ 提出物等		

外 国 語

2023（令和5）年度年間授業計画

学年	3年	教科	外国語 (英語)	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			Revised COMET English CommunicationⅡ(数研出版)						

	1 学期	2 学期	3 学期
ねらい (目標)	① 英語で読んだり、聞いたりしたことに対し、自らの意見や考えを持つことができる。 教科書やその他のやや長めの英文を読んだり、聞いたりした際、その内容をほぼ理解し、内容について自らの意見や考えを持ち、それらを人に伝えようとするすることができる。 ② 自らの意見や考えを3～5文でまとまりのある英語で表現することができる。 自らが伝えたいことを、間違いを恐れずに、前後の流れを意識した3～5文の英語で表すことができる。		
指導の 留意点	英語の4技能をバランスよく用いる機会を設ける。		
学 習 内 容	・ Introduction ・ English Conversation ・ Staying in Space ・ <i>Doraemon</i> in the U.S.	・ English Conversation ・ Farm in the Sky ・ Goal Setting	・ English Conversation ・ The High School Student Restaurant
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・ 方法	〈関心・意欲・態度〉授業に出席し、意欲的に授業参加をしているか。 〈理解の能力〉本文の内容を理解し、発問や指示を理解できているか。 〈表現の能力〉自ら伝えたいことを、簡単な英語にして表すことができているか。 〈言語や文化に関する知識・理解〉世界の言語や文化・背景を知ろうとする姿勢を持っているか。		

2023（令和5）年度 年間授業計画

学年	4年	教科	外国語 (英語)	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			Revised COMET English CommunicationⅡ(数研出版)						

	1 学期	2 学期	3 学期
ねらい (目標)	① 英語で読んだり、聞いたりしたことに対し、自らの意見や考えを持つことができる。 教科書やその他のやや長めの英文を読んだり、聞いたりした際、その内容をほぼ理解し、その内容について自らの意見や考えを持ち、それらを人に伝えようとするすることができる。 ② 自らの意見や考えを4～6文のまとまりのある英語で表現することができる。 自らが伝えたいことを、間違いを恐れずに前後の流れを意識した4～6文の英語で表すことができる。		
指導の 留意点	英語の4技能をバランスよく用いる機会を設ける。		
学 習 内 容	・ Introduction ・ English Conversation ・ About the World ・ Why Is It That Shape? ・ Fuji, a Dolphin With a New Fin	・ English Conversation ・ Do We Need That? ・ Changing Feelings ・ Ban Shigeru, Architect of Paper	・ English Conversation ・ Win for Our Nation ・ From Small Factories to the World
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・ 方法	〈関心・意欲・態度〉授業に出席し、意欲的に授業参加をしているか。 〈理解の能力〉本文の内容を理解し、発問や指示を理解できているか。 〈表現の能力〉自ら伝えたいことを、簡単な英語にして表すことができているか。 〈言語や文化に関する知識・理解〉世界の言語や文化・背景を知ろうとする姿勢を持っているか。		

家庭科

2023（令和5）年度 年間授業計画

学年	3年	教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年間予定授業時数	70時間
使用教科書・教材			新家庭総合 主体的に人生をつくる						

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	生活に関する幅広い基礎知識を身に付け、自分の生活を見つめなおし、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。		
指導の 留意点	生徒自身の考え・発言を重視し、生徒が主体的に動き、積極的に授業に参加していく楽しい環境づくりを心がける。		
学 習 内 容	<衣生活> ・衣服の役割 ・衣服の流行 ・衣服の管理・選択 ・裁縫、ミシン <住生活> ・住まいの役割 ・インテリア計画 ・ライフスタイル	<衣生活> ・裁縫、ミシン <食生活> ・調理実習 <家庭生活> ・家族の役割 ・家族と世帯 ・家族に関する様々な法律 <環境> ・生活と環境問題 ・様々なエコ活動	<衣生活> ・裁縫、ミシン <食生活> ・調理実習 <福祉> ・子どもとかわる ・人間の発達と成長 ・日本の高齢者 ・‘障がい’の理解 <経済> ・家計と生活 ・生活情報の収集 <創造> ・生活の工夫・改善 ・人生設計
予定授業時数	26	26	18
評価の 観点・ 方法	・学習意欲、興味関心、プリントやノートの記入、出席などから総合的かつ客観的に判断する。		

総合的な探究の時間(3～4年)

令和5年度 年間授業計画

学年	3～4年	教科	総合探究	科目	総合探究	単位数	1単位	年間予定授業時数	35時間
使用教科書・教材									

	1学期	2学期	3学期
ねらい (目標)	様々な講座の中から選択した学習を主体的に取り組み、自ら課題を発見し、解決の方策を探究していく。その中で、自己の在り方や生き方について深く考える。		
指導の 留意点	・体験的・生涯学習的な内容の活動を積極的に取り入れること。 ・多様な学習形態をとること。 ・学年の枠を越えて同時に開講し、生徒間の交流を盛んにすること。		
学 習 内 容	・素描 デッサンを通して、対象を観察する力を養う。 ・パソコン入門 タイピングに慣れ、word や excel の基本を学び、社会生活をする上で必要な技能、能力を学ぶ。 ・チェス入門 チェスを学び、先を見通し、考察する力を養う。	・軽スポーツ 体育の授業ではやらない、なじみやすいスポーツを通して、体を動かすことへの親しみを養い、体力向上を図る。 ・将棋探究 将棋や囲碁を学び、先を見通し、考察する力を養う。	・総合教養 テーマに沿った調べ学習をし、情報をまとめ、発表を行う。また、ペン字練習などを行い、生活する上で必要な技能、能力を学ぶ。
予定授業時数	13	13	9
評価の 観点・ 方法	出席状況、授業に対する取り組み状況などを総合的に判断して文章で評価する。		

人 間 と 社 会

令和5年度 年 間 授 業 計 画

(1) 授業の1単位時間：（ 45 ）分間

(2) 全学年、3年間のポイントリザーブ

学期	指 導 項 目	指 導 内 容	評 価 計 画	配当時間
1	事前学習 1	・「人間と社会」で育成したい資質・能力や評価について説明する ・郷土の自然維持や環境美化の体験活動の意義について考える。また周囲の人々に配慮しながら安全に活動を行うための注意点について説明する		1 時間
	【体験活動】	○体験活動 1 大島の環境美化活動（海浜清掃） （1）郷土を大切にすることを養う 連携先 大島町役場	・体験活動についてアンケートに記入させ、自己評価を行い提出させる	3 時間
	事後学習 1	大島の自然環境の現状と課題を考える 体験活動のまとめ		1 時間
	【演習】	1 チームを動かす力 （1）リーダーシップとは （2）リーダーシップを発揮するとは ・ケーススタディ あなたならどうする？で議論する	・興味・関心を持っているか ・自分の意見や考えを持ち、意見交換が来ているか	2 時間
2	事前学習 2	・体験活動の意義と安全に「火の用心」を行うための注意点について	・体験活動についてアンケートに記入させ、自己評価を行い提出させる	1 時間
	【体験活動】	○体験活動 2 地域社会の安全向上のための活動（夜間パトロール） （1）郷土を大切にすることを養う 連携先 大島警察署	・興味・関心を持っているか ・自分の意見や考えを持ち、意見交換が来ているか	2 時間
	事後学習 2	体験活動のまとめ		1 時間
	【演習】	2 文化の多様性 （1）様々な文化 （2）文化の背景 （3）東京に集まる外国人 ・ケーススタディ あなたならどうする？で議論する		2 時間
3	【演習】	3 科学技術の先に…生命倫理を考える （1）科学技術が踏み込む「生命」 （2）医療技術の進歩に関する問題 ・生殖医療 ・中絶 ・終末医療と安楽死 ・クローン技術 ・ドーピングなどについて議論する	・興味・関心を持っているか ・自分の意見や考えを持ち、意見交換が来ているか ・1年間を振り返りアンケート記入させる	2 時間
配 当 時 間 合 計				15 時間